

第4回資源循環ワーキンググループ 議事録

日時：2024年12月4日（水）9時30分～11時30分

会議方法：オンライン開催

■出席者：（敬称略）

委員（五十音順）：浅利美鈴（総合地球環境学研究所 基盤研究部教授）、伊藤武志（大阪大学社会ソリューションイニシアティブ教授）、岡山朋子（大正大学地域創生学部教授）、崎田裕子（ジャーナリスト・環境カウンセラー）、原田禎夫（同志社大学経済学部准教授）

オブザーバー：消費者庁 消費者教育推進課 食品ロス削減推進室、環境省 環境再生・資源循環局 総務課 容器包装・プラスチック資源循環室、大阪府 環境農林水産部 脱炭素・エネルギー政策課、大阪府 環境農林水産部 循環型社会推進室 資源循環課、大阪府 環境農林水産部 流通対策室 ブランド戦略推進課、大阪市 環境局 総務部 企画課

■議事：

1. 開会
2. オンライン上の発言における諸注意と緊急連絡先
3. 出席委員の確認
4. 議事

4.1 大阪・関西万博の直近の準備状況等について（資料4-2）

崎田委員長 それでは崎田の方で議事を進めます。かなり万博の準備も進んでまいりましたので、今日の議事もしっかりと皆さんと意見交換していきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。それではまず、「4.1 大阪・関西万博の直近の準備状況」ということで、事務局より説明をお願いします。

事務局 崎田委員、ありがとうございます。「大阪・関西万博の直近の準備状況について」ご説明差し上げます。

これまでは最初に万博全体の会場の建設図や建設の様子を写真でご紹介していましたが、大まかな外から見てわかるようなところはだいぶ建設が進んでいるので省略をさせていただきました。現在多くの建物が内部の工事などに移ってきておりま

す。クレーンについても、私どもの職場から見るとだいぶ数が多かったところから本数が減ってきていて、大型の工事はだいぶ少なくなってきています。

投影資料に戻りますと、まず持続可能性に関するところをご紹介させていただきますと、8月に「ISO20121」イベントの持続可能性に関する認証規格を取得いたしました。ISOにつきましても、ISO14001が環境に関する企業・法人のものということで有名かと思いますが、イベントに関してはロンドンオリンピックの時に作られたこちらの規格が、環境と人権について包括的に持続可能性ということで認証規格となっております。ロンドンオリンピック以来、ワールドカップやEXPOを含め、大きなイベントではだいたい取られてきている認証システムで、協会でもこちらを取得いたしました。来年は開催期間の中で継続の審査を受ける予定にしております。国際的にも一定程度の持続可能性に関するマネジメントシステムがあるということで認められたと考えております。

会場の中も既に建設が始まっておりますが、投影資料3ページのような形で、どこの国がどこにパビリオンを建設するかを公表いたしました。後ほど、次のページと対比してご覧いただければと思います。

イベントについてです。パビリオンが様々なことを半年間、基本的に同じことを実施していくことと並行し、イベントは1日や1週間という形で行われるということで、9月にカレンダーの初版を公表し、11月に改訂版を公表しております。（イベントカレンダーを確認しますと）投影資料のような形になっておりまして、4月は今後発表予定のものもありますが、5月ですと、EXPOメッセ「WASSE」の欄にて「ANIME/MANGA」などもあります。また、ナショナルデーが各国で定められており、ほとんど毎日のように、どこかの国がEXPOナショナルデーホール「レイガーデン」でイベントをしていく形になっております。6月を見ていただくと、同じようにEXPOメッセで「ベーカリー・ジャパン・エキスポ」や「RELAY THE FOOD」など、食品に関するイベントも予定されております。9月にはテーマウィークということで、社会課題に関するウィークを8つ実施していきませんが、9月18日から「地球の未来と生物多様性」というテーマになっており、政府も関与した形で水素のイベントや、資源循環に関するイベントが予定されております。

営業参加について、食品に関する施設も公表が進んできております。随時公表されておりますので営業参加のサイトをご覧いただければと思いますが、本日は次のページで一つご紹介を差し上げます。投影資料8ページではまとめて公表した形になっております。店舗ということでアニメやお土産というような店も書かれております。持続可能性という観点からすると、マップ左上の牛カツ屋についてはプラントベースのカツも提供されるということで聞いております。また、例えばマップ左

下の近畿大学のお店では、持続可能ということで、マグロで有名ですが養殖魚も提供されると聞いております。マップ右上にはハラルの文字が確認できますが、こちらのお店ではハラルやベジタリアンのフードを提供すると聞いています。ハラルやベジタリアンのフードは他のお店でも提供されますが、そのようなお店も公表されてきております。一部公表されているところで、有名なお店が出店されるところがあるものの、このマップに記載されていないものもあります。そのような店舗は「リングサイドマーケットプレイス西」の「大阪のれんめぐり」等に入っており、必ずしも全店舗が本資料 8 ページに記載されているわけではありませんが、包括的には本資料 8 ページのような形になっております。詳細について、「EXPO 2025 Visitors」というアプリを既に配信しており、このアプリを活用し会場にいらっしゃる時も地図などをアプリでご覧いただくようにしており、基本的には地図は配らず、紙の地図については有料でと考えています。そのため、Visitors アプリを見ていただいて情報収集していただく形になっておりまして、今申し上げたようなことに関しては既にアプリに載っているものです。もしご興味のある方がいらっしゃれば、EXPO 2025 Visitors もご覧いただければと思っております。

崎田委員長 ありがとうございます。建物の準備は大物についてほとんど進んでおり、今度は内容の準備をしっかりと進めていただいていることがよくわかりました。

4.2 EXPO 2025 グリーンビジョンの改定について（資料 4-3）

崎田委員長 それでは次のテーマに移りますが、今日の 2 番目の議題が「4.2 EXPO 2025 グリーンビジョンの改定」ということで、本日は本議題を皆さんと意見交換することが大事な内容です。一度に説明していただくとかなり長くなり、ご意見が広がりすぎるとお思いますので、三つに分けてご説明いただき皆さんからご意見をいただこうと考えています。一つ目は会場内で日々発生する食品やプラスチックなどの廃棄物に関する会場運営について先にご説明いただき意見交換をします。二つ目は会場の建設から会期終了後までを見渡した施設設備等のリユースについてで、最後三つ目は横断的事項についてとなり、皆さんとお話をしていければと思っております。事務局から説明をよろしくお願ひします。

事務局 まず会場運営関係の部分を 20 分ほどで説明させていただきます。資料はグリーンビジョンの改定の関係ということで資料 4-3-1、4-3-2、4-3-3 になりますが、まずグリーンビジョン本体の見え消し版の資料 4-3-3 で一通り説明をさせていただきます。見え消し版の作り方のご説明ですが、改定の箇所が視覚的にわかりやすいように見え消しに加えてハイライトをつけています。黄色ハイライト部分は、記載していたものの時点更新です。緑色ハイライト部分は、2024 年版からより詳細に記したもののや、新たに取組などを新規で追加・記載しているものです。青色のハイライト

は、これまでの検討や協会内での調整状況を踏まえて、今回のバージョンからは削除をしているものです。ハイライトのない見え消し部分については軽微な修正、表現上の適正化や掲載場所を変更した部分です。以上の前提でご覧いただければと思います。資料の本文に入る前の3ページ目に用語の定義をしています。例えば、本文中で「〇〇参加者」という用語を多数使用しておりますが、それぞれこの表中にあるような意味となっています。4～6ページ目は「はじめに」ということで、現時点では前回バージョンからは手を加えておりません。本日の議論や脱炭素編、自然環境編、他のパーツも含めて改定内容を踏まえて最終的には見直しをしようと考えております。

9ページ目の会場、運営関係の部分について説明をさせていただきます。修正部分を中心に説明します。まず「1. 資源循環・循環経済をめぐる国内外の動き」についてです。このパーツでは3点更新しています。一つ目がプラスチックごみの国際交渉に関してです。つい先日も韓国で合意には至らなかったという結果になっており、それを踏まえた最新の状況は今動いているところだと思っておりますが、これまでの時点の状況ということでこのような書き方をしています。

10ページ目です。このパーツで二つ目ですが、第5次循環型社会形成推進基本計画に関して新たに記載をしています。三つ目は食品リサイクルに関して、2024年の3月に改定された事項として、焼却や埋め立ての削減目標が参考値として定められているため更新をしています。

11ページ目、「2. 国内外の動きを踏まえた大阪・関西万博の取組の基本的な考え方」については軽微な修正がほとんどです。協会を持ち込み禁止物や禁止行為に関する来場者向けの規約があり、もともとこの中に「場外から持ち込んだごみの会場内での廃棄の禁止」を謳っていますので、この記述も踏まえ、黄色ハイライト部分のグリーンビジョンの中で記載していた「場外から持ち込んだごみ等の持ち帰りを促し」については削除しています。以下、その他の部分については表現の整理などです。

13ページの「3. 会場運営関係の廃棄物等」では取組の方向性等を記載しています。こちらでは廃棄物の排出量の推計やリデュース・リユース・リサイクルの目標設定、その他各種対策を記載していますが、リサイクルの推計値を更新したことで、各種廃棄物の対策に関して細かく整理しております。

14ページの表II-2ですが、こちらでは燃やすごみのリサイクル量とリサイクル率を更新しております。従来、紙としてリサイクルが難しく、燃やすごみとなるコーティングされた紙や紙コップ、紙皿、レシート等の感熱紙などの難再生古紙も、会

場内で使用するトイレトーパーにリサイクルしようと検討を進めています。その分、燃やすごみの欄の数字 65 トンを約 95 トンに更新しています。

15 ページに記載のリサイクル目標については、先ほどの表 II-2 の説明を記述しているものです。

16 ページの「廃棄物の削減やリサイクルに関する具体的取組」に関して説明します。現在、協会内の検討状況を冒頭に記載しています。時点更新や新規で追加をしているところがあります。フードトラックエリアにおいてリユース食器の導入をすること、来場者が自由に利用できる給水機約 80 台を会場内に設置することによりマイボトルの利用促進をすること、マイバッグの持参やエコバッグ・紙製の手さげ袋の販売推奨などを記載しています。具体的対策について、まずプラスチック対策に関してですが、営業出店される事業者より問い合わせが多かった買い物袋や容器包装、中でも食品容器と飲料容器、カトラリー類や箸、ペットボトルといった項目に分けて対策を整理しました。まず買い物袋について、協会ではマイバックの持参を呼びかけること、会場内で提供する買い物袋は有償のエコバッグや手さげの紙袋のみとしそれ以外の配布は禁止すること、手さげ紙袋は協会の分別区分においてリサイクル可能なものとする、と記載しています。物販における買い物袋を除く容器包装ですが、従来からの記述として会場内で包装する場合の容器包装はプラスチックを禁止とし、容器包装する場合でも協会の分別区分においてリサイクル可能なものとしておりますが、それらの容器包装において別途例外等を示しております。一つ目が緩衝材に関してです。こちらはプラスチックの使用を禁止しますが、その緩衝材自体にはリサイクルの可否は求めません。具体的にはリサイクルが困難な昇華転写紙や木毛（もくもう）などを使用いただけることとなります。二つ目が、タイミー袋になります。タイミー袋とはいわゆるスーパーのレジの後においてあるロール状の薄いプラスチックの袋になります。マイバッグの持参を呼び掛けていく中で、液漏れなどでマイバッグの汚損の可能性があるものに関しては、このような対策が必要だと整理しましたので、使用を認める形にしたいと考えております。

17 ページですが、三つ目が保冷袋についてです。飲食物を包装する場合は有償販売を可能とする方向で考えています。以上、三つが例外的なものとして認めてはどうかと考えているものです。また、会場外であらかじめ包装されたものに関しては、万博会場ということも踏まえ従来とは異なる対応、例えば、博覧会協会の分別区分において紙としてリサイクルできる素材や、木やバガス等の脱プラスチック素材の導入を検討することを求めています。

食品容器、飲料容器についてです。こちらは店舗区画内ではリユース食器を使っただけこの記載は変更しておりませんが、リユース食器を使用するまでもな

いような包装紙で事足りるような食品、例えばハンバーガー等に関しては、包装紙での提供を可能といたく考えております。また、フードトラックエリアに関しては、6エリアのうち5エリアでリユース食器の運用を行います。残りの1エリアに関しては生分解性プラスチックを使用し、使用済みのものを食品廃棄物と合わせて堆肥化処理する検討をしております。会場内で調理したものの食器に関しては、もともとは食品廃棄物と一緒に堆肥化可能なものやその他資源化可能なものとしておりましたが、現在のリサイクルの検討状況や回収スキームなどを踏まえ、まずは博覧会協会の分別区分において紙としてリサイクル可能なもの、それらが難しい場合は脱プラスチック素材を使用する方向で考えております。会場外で調理した飲食物の容器包装は先ほどの容器包装と同様になります。カトラリー類や箸等に関してですが、基本的に食品容器、飲料容器と同様の記載をしております。異なる箇所だけ説明します。

18 ページの緑色ハイライト部分ですが、リッド（ドリンクカップの蓋）とストロークに関しては飲料提供の際は使用せず、やむを得ず使用する場合は脱プラスチック素材のものを検討すると新たに記載いたしました。また、おしぼりに関して、基本的には再利用できるものを優先いただき、使い捨てのものを配布する場合の包装材料に関してはバイオマス配合率 50%以上を検討いただきたいことを記載しております。ペットボトルに関してですが、マイボトルの持ち込みを推奨するというのですが、バイオマス由来のペットボトルの導入は一般的な販売物品として取り組むことが難しいため、今回はペットボトルの水平リサイクル実施に向けて注力していきます。

19 ページ。これらのグリーンビジョンに記載したプラスチックの具体的な取組の実施が、やむを得ず難しい場合は、協会が指定する使用計画書や使用実績報告書の提出を求めたいと考えておりその点を新たに追加しています。協会としては実態を把握していきたいと考えています。実態を把握すべきものに関しても同様に資料の提出を求めます。提出対象を表 II-4 に整理しております。ただ、書類を提出すれば使用できるという訳ではなく、理由が妥当かどうか博覧会協会 持続性可能部の担当にて検討いたします。例えば、実態把握が必要なものとして、買い物袋やリユース食器、リユースのカトラリーおよび箸が使用できない場合、テイクアウト等で使用する使い捨ての食器およびカトラリーにおいて、紙や脱プラ素材を使用できない場合は、使用実績報告書を提出いただきます。使用実績を把握することで、最終的に協会でもまとめようとしている報告書に反映できればと考えております。

20 ページ。続いて食品対策に関してです。食品ロス削減対策ですが、少し表現を更新しております。来場者数の予測に関して、それらの情報を有効に事前に知らせることが可能か、協会内で検討している段階のため、前回の記載からは修正しこの

ような表記としました。また、レセプション・パーティー等、一般の来場者からは見えにくいところですが、一定、食品ロスの発生が想定されるところに対してもきちんと対策を整理し、情報発信していきたいと考えております。

21 ページ。食品廃棄物のリサイクルに関してですが、現在の検討状況を踏まえ黄色ハイライトで更新しております。食品ロス削減対策をした上でも排出された食品廃棄物に関しては、会場内の日本館とカーボンリサイクルファクトリーでバイオガス化、会場内のコンポスト機で堆肥化、会場外の堆肥化施設で堆肥化等の全量資源化を検討しています。一方、食品リサイクルループに関しては削除いたしました。食品リサイクルループの形成にあたっては、食品関連事業者、再生利用事業者、その堆肥を使う農業者等の連携が必要になりますが、食品廃棄物の処理委託が現在検討中であることなど、ループ形成する様々な条件を全て満たすには時間を要することを踏まえ、削除することといたしました。3) その他の廃棄物対策のノベルティ等配布物に関してですが、基本的には買い物袋と同じような形で、資料やノベルティ、手土産等を配布する際、袋を極力使用しないこと。袋に入れて配布する場合はエコバッグや紙製の手さげ袋を使用する。と買い物袋と同じ内容にいたしました。また、廃棄物の抑制のため、会場内外で飛散の恐れがあるノベルティの配布は禁止することを考えております。

22 ページ。風船やバルーンに関しても飛散の恐れがあるため、追記をし、販売を禁止するとしています。青色ハイライト部分の「会場外の宿泊施設と協働しプラスチックアメニティ（歯ブラシ、くし、ひげそり、シャワーキャップ）などの削減の推奨を検討する。」ですが、協会として、例えば、EXPO グリーンチャレンジアプリのチャレンジメニューにおいて、宿泊先でのマイ歯ブラシの利用を設け、呼びかけを行っておりますが、宿泊施設との協働での仕組みづくりまでは至らなかったため削除をしました。最後に、緑色ハイライト部分ですが、未来社会の実験場である大阪・関西万博において、3R や循環経済に関する社会実装が期待される取組として難再生古紙のリサイクル、ペットボトルの水平リサイクル等を実施し、広く社会に情報発信する、と新たに記載いたしました。こちらに関しては関係者間で調整中となっており、検討段階にあるものもありますが、どのようなものがあるか、一旦説明いたします。

まず一つ目がペットボトルの水平リサイクルです。万博会場内で排出されたペットボトルについて、水平リサイクルを実施する方向で調整しています。水平リサイクルの意義や、その推進には回収時のペットボトルの品質向上が重要であることを情報発信するとともに、ボトル内の飲み残しや異物混入の抑制効果が高まるよう回収ボックスのデザインを工夫することを検討しております。次に、使用済み紙おむつのリサイクルです。紙おむつの素材は上質パルプ、プラスチック等から構成され

再生利用等が可能ですが、現在、その多くが焼却処分されています。大阪・関西万博においては会場内に専用の回収ボックスをトイレや休憩スペースなどに計約10か所設けて回収し、それらをブロックなどのこども玩具や床材などにリサイクルする予定です。次に、難再生古紙のリサイクルです。会場内では脱プラ、減プラを求めている、プラの代替素材として紙の利用が増えることを想定しています。それに伴い、紙としてリサイクルが困難な使用済みの紙コップ・紙皿・紙製容器などが発生します。それをリサイクル可能な紙と併せてトイレットペーパーにリサイクルします。そのトイレットペーパーは会場西側のフューチャーライフゾーンで使用する予定です。四つ目が、リユース食器の運用です。様々なイベントでも実施されていますが、長い会期期間中常に実施されるため大きな取組の一つと考えています。通常、使い捨て容器が使用されることが多いフードトラックエリアにおいて、6エリアの内5エリアでリユース食器を導入します。フードトラックエリア付近に使用済みの食器回収拠点を設けて回収し、会場外の洗浄施設で洗浄の上、再使用する予定です。残りの1エリアでは、次にお話する、生分解性プラスチックの食器を導入する予定です。最後に、生分解性プラスチックの堆肥化です。通常、使い捨てプラスチック食器類が使用される場面において生分解性プラスチックの食器を導入するとともに、使用済み食器を食品廃棄物と合わせて堆肥化する処理を検討しています。事業者にご協力いただき2024年6月に堆肥化試験を開始しており、近日中に結果を協会ホームページに公表する予定です。

以上ご説明した内容をもとに、これまで作成しております概要版についても更新しております。資料4-3-2でございます。主な修正は赤字で示しております。2ページ、3ページは大きな修正はございません。4ページは、リサイクルの目標量の修正です。5ページは、具体的な取組です。キッチンカーと呼んでいたものを「フードトラックエリア」と呼称統一しました部分を含め、ご説明しました新しい取組・具体になった取組を踏まえ更新しています。また、参考資料4-4との対比になりますが「来場者数の予測に応じた食材量の調達」「食品リサイクルループ」「会場外の宿泊施設のプラスチックアメニティ（歯ブラシ、くし、ひげそり、シャワーキャップ）の削減の呼びかけ」は、本文と同様、実現のための諸条件が整わなかったことなどから記載から省かせていただいております。以上、会場運営に関わる廃棄物に関する説明を終了いたします。

崎田委員長 ありがとうございます。会場運営に関する廃棄物について、できるようになったこと、残念ながら今回は進んでいないところなど具体的にお話がありました。皆さんからご質問・ご意見をいただきたいと思っております。岡山委員よろしくお願ひします。

岡山委員 ご説明ありがとうございました。だいぶ踏み込んだ内容になり良かったと感じています。1点だけ、今回の資源循環の取組は、結局3Rの取組となるので優先順位は3Rの優先順位に従って進めるべきものであると考えています。その意味では、例えば、社会実装について期待される取組や効果、つまりグリーンビジョンの先を見据えた視点で考えると、今の記載はペットボトルの水平リサイクルなど、リサイクルばかりが注目されているように見えます。そうではなく、例えばリユース食器の方が優先されるべきであり、リユース食器による食器の使い捨てのごみの発生抑制をどのように仕組んでいるのか、それによりどのくらい発生抑制が進んだのか、ペットボトルも、水平リサイクルではなく、優先順位としてはマイボトルによってどれだけペットボトルごみのリデュースができるかという方が重要なので、どのくらいボトル洗浄機があり、そこで洗うことができ、リユースできることによりどれだけごみがリデュースされたかということ、事業者にも伝えて、どちらかといえリデュースを優先するというメッセージになればよいのではと思いました。気になった点として、タイミー袋は届け出をすれば使ってもいいというような感じに見えますが、飛散しがちなポリエチ袋は配りたくないなと個人的には考えています。

崎田委員長 ありがとうございます。岡山委員に確認ですが、最初のご発言は非常に大事ではありますが、例えば今回の文章の中に明確にご指摘の点を入れ込む、順序を変えるなど、何かご提案はありますでしょうか。ご発言内容は大事ですが、事業者への説明などの徹底においてその点を強調するというご提案であればそれでも結構です。

岡山委員 11ページ目で、マイバッグ・マイボトルの持参によるリデュースの言葉が下の方の箇条書きに書いてあります。上の方には3R+リニューアブルとありますが、やはりリサイクルとリニューアブルの優先順位が高いのではと感じられます。例えば、リデュースから始まるというような並べ替えにすることもありかと思えます。プラスチック規制の国際取組が決裂したことにショックを受けていますが、その辺りも最初の方でどのように記載するのかなと思っています。

事務局 本文も検討しますが、ご覧いただいた参考投影資料が一番ひっかかっているのではと考えました。この資料は将来的に発表の場があれば、グリーンビジョンと一緒に使っていくものの土台としようと思っていました。給水機はあまり新しくないので、思い省いてしまったところがありますが、リデュース・リユースがもっと目立つような形で作り直して今後講演等で利用する機会があれば使っていきたいと思えます。

岡山委員 はい、そう思います。この資料はリサイクルしかなく、新しさということで言うならばリデュースの取組は真剣にやったという方がよっぽど新しいと思います。

崎田委員長 ありがとうございます。事務局よりコメントがありましたが、趣旨は受け止めていただき、資料もリデュースの部分をしっかりを入れ込みながら作っていくように配慮したいというお話でありがとうございます。私の意見として、例えば、給水スポットを作るときに分かりやすく目立つように設置してほしいと思います。岡山委員、大事な点をご指摘いただきありがとうございます。事務局の方、タイミー袋の話が出ましたが、これに関してコメントはありますか。

事務局 出店事業者からの意見等も踏まえ現状はこのような形にさせていただいており途中で説明させていただきましたが、なんでもかんでも計画書を出せば OK とは考えておらず、納得できるものかどうかをチェックさせていただいた上で最終的に事業者に使っていただくことになると思っております。この点は個別に内容を見ていきたいと考えております。

崎田委員長 ありがとうございます。その辺りしっかりとお願いします。では、浅利委員お願いします。

浅利委員 かなり詳細が詰まってきたかと思えます。聞き逃していたかもしれないですが、今回は国数が 160 か国以上になっていると思えますが、英語にして説明されているのか、どのような形で情報共有されているのか、その辺りを教えていただきたいです。

あと、大変細かいですが、我々京都からの出店などでも関わっておりまして、その中でせっかくなので風呂敷の利用などを考えています。この機会に眠っている風呂敷を回収し、それを選び分け、洗浄して皆さんに提供することも考えています。販売するのか、もしくは古物商の資格をとってまでというのが難しいのであれば、風呂敷を体験するというサービスとして提供し、そこに風呂敷をセットで差し上げるという形を取ろうとしています。リユースになってくると、今回のレギュレーションの中でどのように整理するのかという部分も出てくると思いますが、そのようなチャレンジも認めて織り込んでいただけるように、調整いただけたらと思います。後半はややこちらよりの発言ですがご検討いただけたらということで発言いたします。お願いいたします。

崎田委員長 ありがとうございます。最初にお話いただいた 160 か国以上に英語できちんと情報共有できているのかについて、今回、この資源循環の部分もかなり検討しているということが伝わるのが大事だと思いますので、大事なご指摘ありがとうございます。事務局で、今どのように世界各国のパビリオンに資源循環の情報を共有しているかお話いただけますか。

事務局 参加国には、協会の窓口部局を通じてグリーンビジョンのご説明をまいります。それによって、参加国に対してどこまで対応いただけるかということをお求めたいかと考えております。国際局もしくは私たちからご説明をするというような形で考えております。

崎田委員長 わかりました。おそらく、グリーンビジョンなどが英訳されてホームページに掲載するような形で準備しているのかという意味も込めておられるのではと思いますがいかがでしょうか。

事務局 そのあたりについてはご期待に沿えるような形で検討してまいりたいと思います。

崎田委員長 ありがとうございます。また、リユースのチャレンジなどを認めてほしいという点に関しては何か事務局の方でありますか。

事務局 会場内で実施できるかどうかを、今、関係部局の方に確認をしている最中です。浅利委員がおっしゃっていることも理解はできますので、積極的に前向きに調整を進めていきたいと考えております。

崎田委員長 ありがとうございます。グリーンビジョンも英訳などを考えて説明していくという話がありました。ご意見ありがとうございます。次に原田委員をお願いします。

原田委員 ご説明ありがとうございます。まず一点目。これはご質問ですが、汚泥のリサイクル率が際立って低いように見えたのですが、産廃で出す必要があると思いますが技術的に困難なのでしょうか。以前にお話があったかもしれませんが、この辺りを教えていただけたらと思います。

また、先ほども議論に出ていたタイミー、あるいはカトラリーも同様ですが、例外的に認めるのはよいですが、タイミーあるいはカトラリー、ストローについて、ヨーロッパに行くとき顧客が求めた場合に限り、つまり顧客に意思の確認をせずに渡してしまうことがないように義務づけられたりしていますので、例えばタイミーについては汚損の可能性などのある飲食物を包装する際、顧客が求めた場合に限り、安価でもよいので無償よりは本来的に有償の方がいいのではと思います。

リサイクルの可否は汚れを考えて求めないとされていると思いますが、本当にリサイクルの可否を求めないでよいのかと感じました。

リユース食器について、例えばハンバーガーなど、包装紙で提供可能なものはリユース食器を使わないという話がありましたが、例えば、フランスのマクドナルドではポテトがリユースの容器に変わったりしているので、環境負荷のことを考える

とどちらがいいのかなかなか難しい部分もありますが、リユース食器をまずは大前提とするような、包装紙であっても過剰包装にならないようにご配慮いただけるような表現になればと思いました。

また、タイミーあるいはカトラリーについて、先ほど顧客が求めた場合にのみと申し上げましたが、顧客への意思の確認の仕方も、確認の仕方一つで例えば「袋をつけましょうか。」と聞くのか「このままでいいですか。」と聞くか、で顧客の辞退率も大きく変わるので、ナッジなどを活用してもいいのではと思いました。グリーンビジョンに記載するのか、あるいは実際説明する際に伝えるのか、どちらがいいのかは分かりませんが、確認の仕方というのも大事なポイントと思います。

19 ページで、おしぼりの布製の優先が削除になっていた理由を教えてください。布製の繰り返し使えるおしぼりは、日本には昔からあり一般的にも広く普及していますので、できたらそちらの方がいいのかなと思いました。

宿泊施設との協働についてなかなか条件が整わなかったというお話でしたが、大阪・関西万博ということですし、例えば滋賀県では旅館・ホテルなど衛生組合で、アメニティの無償提供をやめる取組を既に始められているので、宿泊施設との協働は何らかの形であった方がいいような気はしました。

最後に、先ほど岡山委員から指摘のあったリデュースを優先するべきでリサイクルは最終手段ではないかというお話で、例えばペットボトルの飲料販売禁止は難しくても、ペットボトルでの飲料販売を希望するものは、例えばマイボトルへの飲料の販売を優先して行くことを推奨ではなく義務付けるとか、あるいはペットボトルで販売してもいいが、販売する人はウォーターサーバーを設置してくださいとして、その上でペットボトル飲料の販売を認めることにしてみるのはいいいのではと思いました。

崎田委員長 ありがとうございます。項目は多いですがどれも非常に大事な話です。事務局からお答えいただけますでしょうか。

事務局 汚泥に関して回答いたします。汚泥に関しては、リサイクルする方向で検討しております。ただ、正直量が読めていない部分もあり、現状このような低い数値になっております。営業参加者が決まってきておりますので、営業参加者に汚泥がどれくらい発生するのか、現在ヒアリングしており、それも踏まえながらリサイクル率の向上について検討してまいりたいと考えております。

崎田委員長 ありがとうございます。タイミー袋やリユース食器、おしぼり、宿泊施設のアメニティ、ペットボトル飲料を認める時のリユースについてなど、それぞれ非常に

大事なご指摘と思い、実現できれば良いと思いますが、事務局の方で一言コメントをいただけますか。

事務局 原田委員のご指摘のうち、タイミー袋、カトラリー、過剰な包装にしないという点も含まれるかもしれませんが、お客さんに求められた場合を前提として考え、なんでもかんでもタイミー袋などに入れたり使ったりしないように示した方がいいというご指摘かと思います。その辺はご指摘いただいたような趣旨でグリーンビジョンにも書かせていただきたいと思います。リサイクルの可否は求めないという点について、今までの検討の中でそこまで求めてしまうことが難しいと検討してきた訳ですが、ここは再度検討させていただきたいと思います。おしぼりの布製の部分ですが、布製のおしぼりを使っていただくことが一番推奨すべきものだとも協会としても考えていますが、表現としてそこが削られてしまった形になっていますかね。

おしぼりにつきましては、おっしゃる通りです。余計に削除してしまいましたので、リユースの布製のおしぼりを使う点については記載する方向で進めさせていただきます。

崎田委員長 宿泊施設のアメニティについてはいろいろ取組を始めている宿泊施設もあるので、断念してしまうよりはできるところから広げるなど、残しておいてもいいのではという話がありましたがいかがでしょうか。

事務局 おっしゃるようにいろいろな大手ホテルチェーンももちろん始めておられますし、環境意識の高いお客様に対応するためにも、そのような商慣行になってきたかなという雰囲気は感じています。そのような中で、協会と直接協働して何かをやるところまで条件が整わなかった訳ですが、例えば地元の自治体もそのような取組も実施しておりますので、何かしら協会としても働きかけていながら、地元自治体との協力・協働を考えられるかどうか、検討させていただきたいと思います。

崎田委員長 明確な協働のようなことができなくても、協会から推奨することで情報発信するだけでも違うと思いますので検討いただければと思います。

ペットボトルのお話ですが、ペットボトル飲料の販売は認めるけれど、マイボトル販売や給水の協力なども伝えた方がいいのではという話がありましたが、これも大事なご指摘ではあります。事務局の方で一言いただけますか。

事務局 会場内でペットボトルを提供する事業者ではないですが、会場内で来場者が持ち込むマイボトルに対し、飲料水や商品を提供するような要請はしております。営業参加者などにアンケートをしたところ、協力いただけるような意思表示をいただいている事業者もおられますので、そのようなところに対してはマイボトルの使用が可

能であると考えております。原田委員からご指摘のあったペットボトルを売られる事業者に対しましては、既に協会として発注をしております、そこに諸条件を入れられない形になっております。後から入れてしまうと、厳しい制約条件になってしまいますので、そのあたりは難しいということをご容赦いただければと思います。よろしく願いいたします。

崎田委員長 ありがとうございます。原田委員、個別に全部お答えいただきましたが、何か気になる点があれば一言いただけますか。

原田委員 全般的にですが、やはり消費者に選択肢を与える、委ねることが一つは大事なポイントかと思えます。カトラリーやペットボトルかマイボトルかという話もそうですが、例えば、タイミーやカトラリーは必要性の有無を尋ねることや、ペットボトルはいらぬという消費者がマイボトルで水や飲み物を購入・入手できるような仕組みづくりは、出店者だけではなく、協会主催者としても取り組んでいただく必要があると思えます。事業者に対する説明でポイントをしっかりお伝えいただければと思いますので、よろしく願いします。

崎田委員長 おっしゃっていただいたように、これから新しい条件を付け加えることは時期的に無理ですが、消費者選択の話など、説明時に協会が推奨していただくことはできると思えますので、その辺は考えていただければありがたいと思えます。伊藤委員、お願いします。

伊藤委員 リデュース・リユースが目立つようにという点について、岡山委員のおっしゃったことはそのように思います。来場者として個人で参加をしたい時に、マイボトルとマイバッグは持ち込まなければならないと思いますが、どのような心構えで万博に行けばよいかというイメージが持てていないところがあります。あるいは物を買う、水を飲むなどの経験後、帰った後どのようにその経験を参考にして生活をすればよいか。経験を活かして生活したらどのように世の中に良いインパクトがあるか。またそのような行動を皆に共有するとさらにまた良くなるか、というようなストーリーを、一般の来場者の感覚で行動がより分かりやすいようなのであればと感じました。

2つ目ですが、グリーンビジョンの検討については、アイデアを出されて、ありがたい姿や実際の実現性を考え、交渉し工夫して検討された結果として形になっており非常に素晴らしいと思っています。この辺は、世の中の人たちに見えないところがあるので、工夫に工夫を重ねた結果として、汚泥やリサイクルのごみのBAUからの削減など、予測が出来上がっていることが、わかりやすく世の中の方に伝わればと切に思っております。リサイクルループは結果難しいということも含めて、何もやっていないわけではなく努力に努力を重ねた結果であることは、非常に大事であ

ると思っておりますので、その過程について分かりやすくメイキングのような形で表現いただくことも大事なのではと思っております。

最後に、脱プラスチック素材について、難しいので外していると思いますし、用語集には「脱プラスチック素材」の記載はないかと思えますし、使用計画書の記載内容を事務局が確認いただくこともおっしゃっていたのでそれは正しいと思いますが、グリーンビジョンに記載するかどうかはともかく、「脱プラスチック素材」がどのようなものであるかについて、どのように事業者と共有したり、詳しく用語定義されるかが気になりました。

崎田委員長 ありがとうございます。来場者が万博にどのような気持ちで行くのかを大切にしていって、心構えが伝わっていくことが大事なのではという話がありました。メイキングについても、しっかり考えてやっていることも伝わるようにすることがいいのではないかと。3番目に、脱プラなど、事業者とどのように共有しているのかというところがありました。特に3番目についてはきちんとお答えいただくとありがたいかなと思います。事務局、よろしくをお願いします。

事務局 まず3点目について回答させていただきます。営業参加者やパビリオン出展者等に対しては、持続可能性部から、今回のグリーンビジョンの改定案を踏まえた形でご説明しております。ご説明の後に、質疑応答やメール等で個別に質問をいただき、事業者の方で理解が及んでないところは、オンライン等で個別に対応させていただいております。脱プラ云々については、飲食を提供される事業者も、テイクアウトなどで包材をご検討されておまして、紙やバガス容器などを既にご存知の事業者もおられます。ご存知でない方につきましては、協会からそのような素材があることをお示ししております。ただ、協会側で最初に答えを出してしまいますと、それに従えばいいんだという風潮にもなりかねないことも恐れており、そうならないように、まずは事業者の方に考えていただいた上で、難しければ協会から手を差し伸べるような形で進めさせていただいております。

崎田委員長 ありがとうございます。今具体的な回答は無理かもしれませんが、会場に来てくださる一般参加者の皆さんに事前に、3Rを大事にして準備していることなど、きちんと伝わっていくことが大事というご意見は重要だと思いますので、その辺は今後、情報発信の面で配慮していただければと思います。よろしくをお願いします。

伊藤委員 先ほどの事業者に考えていただくという答えは非常にその通りだと思います。そのような工夫も、持続可能性部での工夫とともに事業者の工夫をいつか社会に共有していただくと非常に良いのではと思えました。ありがとうございました。

崎田委員長 岡山委員、お願いします。

岡山委員 先ほどプラスチックのことをお話しましたが、食品ロスについて追加したいと思っています。10 ページで第五次計画について書かれていますが、報道されているように、2022 年の段階で半減という目標は達成されてしまったこともあり、2024 年 3 月の改正案については、フードドライブと寄付、ドギーバッグでの持ち帰りを強く推奨していたと思います。万博なので、「持ち帰り」も多々あるのではないかと考えています。そこで 15 ページですが、生ごみについては、「飲食を提供する参加者における食品ロス削減の対策」が最初に書かれておりますが、何のことが多分わからないと思います。もう少ししっかり書くのであれば、「飲食を提供する参加者については食べきりを原則とする」としていただけないかというのではと思います。食べきり原則ですが、それでも持って帰ることがあると思います。万博は珍しいフードも出るので、それを持ち帰りたいという来場者については、プラスチックではない紙製などの容器で持ち帰るといように二段構えにしてもらえないかというのではと思います。

崎田委員長 大事な点を言っていただきありがとうございます。この後どなたからも出なかったら言おうかと思っておりました。食べきりが原則ですが、残ったものは持ち帰り、必要であれば、環境省のホームページでも公開されている「mottECO」などを活用していただいてもいいのではと思いました。事務局で食品ロスに関してコメントありますか。

事務局 申し訳ありません。食べきりは記載させていただきたいと思いますが、持ち帰りは今回考えておりません。衛生の観点から、割と暑い時期にお越しただいて一日過ごしていただくことがほとんどだと想定しておりますので、その際にしっかり持ち帰れるかというとなかなか難しいと考えております。衛生担当部署とも話しましたが、申し訳ないですがやらない方向で考えております。

崎田委員長 わかりました。最近、食べ残しは自己責任で持ち帰ることを外食で徹底させる方向ですが、屋外のイベントで、夜まで帰らない方も多いというお考えはわかると思います。ありがとうございます。今そのような方針だということですね。皆さんから、かなりお話をいただいて、本日の進行予定を踏まえるとかなり押していますが、委員の方々のご関心の高い分野だと思い、じっくり時間をとってお話いただきました。

次は施設設備のリユースの方にお話を進めていきたいと思っています。まず事務局の方からご説明いただき、委員の方からご意見いただくということで進めたいと思います。よろしくをお願いします。

事務局 見え消し版資料の 4-3-3 の 24 ページから 26 ページを中心に説明させていただいて、後で概要版も少しご覧いただこうと思います。「(2) 施設設備のリユースに

関する取組」を中心に今回かなり手を入れました。前回の第3回資源循環ワーキンググループ以降、持続可能性部で施設設備のリユースに関する活動で積み上げたものを中心に、緑色ハイライト部分に少し記載しました。2月に大屋根（リング）木材の需要を把握するためにサウンディングを実施しました。その時にだいたい30社からご提案があり、もともとの設計上は機械で解体するようになっていますが、今後、実際にリングのリユースのための解体については人手を入れて解体をするように少し設計を変更していこうと考えていますが、その時の具体的な量の把握のために、グリーンビジョンにおける情報は今後使っていく予定です。大きな動きがあったのが、2024年7月以降になります。主に投影ページに記載していますが、EUやアメリカでは実際に建築資材のマッチングプラットフォームが既に運営されており、同様のものも日本で作っていかないといけないという意識を持っていただいている企業10社の協力を得まして、リユースマッチング事業を立ち上げました。8月に協会のホームページに、万博サーキュラマーケット ミヤク市！というサイトを立ち上げております。次の26ページにある通り、ミヤク市！と検索いただくと投影画面のようなサイトに飛びますが、施設等のリユースに興味のある方は、実際に興味のある施設をクリックしていただくと、最終的に協会と連絡が取れ、問い合わせフォームに記入していただき、協会とディスカッションが始まるという仕組みを作っております。現在ミヤク市！に載せているのはリース建材となります。リース建材を使用している建築物は、実際にその使用した建材を返す必要がありリユースできないので、リース建材等が使用されていない協会が管理する施設、シグネチャーパビリオン3棟や若手建築家施設等22施設、順次増えて現時点では23施設と大屋根（リング）をミヤク市！に載せている状況でございます。具体的にはまだ公募には至らないですが、今、公募の準備をしている状況でございます。実際にミヤク市！のサイトから来ている問い合わせがだいたい100件ぐらいあり、全部が全部具体的な話に進んでいる訳ではないですが、例えば自治体で施設の一部を自分たちが考えている事業に使いたいという話は来ており準備を進めている段階でございます。今後、リング、施設のリユースや、実際に施設としてのリユースは難しくても設備類・備品、街灯などのリユースも準備中でございます。今度はさらに協会が使っている机や椅子も含めた備品・什器類のリユースも考えて、後にPHASE1、PHASE2、PHASE3などの段階に分け公募にかけていく予定です。以上が、協会が管理しているものですが、ミヤク市！は協会が管理している施設だけではなく、公募した参加者あるいは民間のパビリオンにも利用していただきたいと思っておりますので、呼びかけも今後図っていきたいと考えております。リユースやリサイクルに関する目標については、仕組みづくりなどにかかなり注力していた関係で、最終的に報告段階では大事になってくる部分ですが、この部分は今後力を入れていきたいと考えております。本日は、2月時点の内容と大きく変わってはおりません。

次に概要版です。施設設備のリユースに関して、中心は6ページです。中段に PHASE1、PHASE2、PHASE3 とあります。PHASE1 は施設ごとのリユースで、下の表の「施設等の移転」にあたり、今は問い合わせ窓口をミヤク市！に設けておりました、お話を受けているところでございます。まだ正確な時期は申し上げられませんが、年明け2月、3月頃に順次応募にかけていこうと考えております。建設資材や設備、リング木材は、少し PHASE1 より遅れますが、同じように2月から3月に、ミヤク市のサイト上で出品して順次公募していくという形になります。PHASE1 と PHASE2、特に PHASE2 については、メルカリほどではないがメルカリのようなマッチングサイト的なものも、10社の協力のもとサイトを立ち上げ、その中で入札する形で考えております。10社の構成ですが、例えば様々なもののリユースを手がけている会社、あるいは物流会社、リース建材等を扱っている会社などをバランスよく10社にご協力いただいております、例えば建物の中で協会がリユースしたい設備等を丁寧に取り外し梱包し、さらにそれを協会の中で会期が終わりましたら建物も壊すまではそこに残っているため、それを倉庫代わりのように使うことも考えており、そこに梱包した設備や備品を一時保管し、マッチングできた事業者に引き渡すこととなります。引き渡すところは、物流のノウハウが必要なので、物流業者の協力は協会にとって大きく、そのようなことをこの間やってきたところでございます。PHASE3 ですが、会場内外の什器・備品類は基本的に取り外しがいらぬものでございます。これらはまた別のリユースマッチングサービス等で公募する予定で、このスキームや運営体制は調整中でございます。最後に、設備のリユースも大事ですが、6か月間の会期なので、本来は設計の段階からリースができればよかったのですが、この部分についても最終的に報告の中で補強したいと考えております。

崎田委員長 ありがとうございます。施設設備のリユースに関してミヤク市！がスタートしたということでお話いただきました。

特に質問などがないようですので、私から一つコメントさせていただきます。うまくいけば本当に大事なことで、大きなイベントで施設設備・什器類のリユースがしっかりとできれば素晴らしいと思っています。東京2020大会の時もいわゆる調達物品に関しては94%リユース（リサイクルを含むと99%）できましたが、施設設備まで大きく広げるといふところまではいかず、施設を作るときはできるだけそのまま継続して使うことを考えて作っていた訳ですが、解体する場合は最初からテントなどで作っていたのでやり方は違いますが、今回のこのような点がうまくいけば素晴らしいと思いますので、発信を力強くやっていただければと思います。何か事務局の方から一言ありますか。

事務局 コメントありがとうございます。最終報告で後々使える、参考になるようなものを報告しないといけないと思っていますので、その点を考えてやっていきたいと思えます。

崎田委員長 ありがとうございます。しっかりと注目して拝見していきたいと思えます。よろしくお願ひ致します。それでは最後のテーマですが、横断的事項についてご説明お願ひします。よろしくお願ひします。

事務局 横断的事項としては、主にジュニア SDGs キャンプと Co-Design Challenge について記載をしております。ジュニア SDGs キャンプは、会場の西側にあるサステナドームという会場で行うこども向けの ESD（持続可能な開発に関する教育）について実施し、体験型プログラム、会場内ツアー、Web コンテンツの展示をやっていきます。体験型プログラムについては、別途学校や教育関係の先生などにもご相談しつつ、どんなプログラムをやっていくかということを検討してきておりました。現在はそれぞれ個別に、どんなプログラムをやるかを詰めている段階でございます。その中で、協会がやるもの、企業、NPO、大学ゼミ等でやっていただくものと様々用意したいと考えております。

参考資料 4-5 をご覧いただきたいのですが、今年の夏からこのような形でジュニア SDGs キャンプという参加プログラム提供をご検討いただくということで募集をしております。サステナドームは会場の西端の方にあり、200 平方メートル、定員 40 名ぐらいで一時間程度の体験型プログラムをやっていただこうと考えております。ただ、様々なご希望がありまして 2 時間や一日など要望に応じて使い方を柔軟に考えていきたいということで、希望される方と調整をしているところでございます。中のイメージは 5 ページのような感じになっておりまして、この中でテーブルを出して作業することもできる形になっております。プログラムをやっていない時は Web コンテンツ展示ということで、タッチパネルを用意し、そこで会場内の SDGs に関するような情報を提供したり、クイズ、映像などを流していこうと考えております。必ずしも 6 ページに書いてある通りというわけではないですが、一例として、このような形で募集を差し上げています。中小企業、スタートアップ、NGO・NPO については、プログラム 1 枠から 3 枠ぐらいまでで調整をしております。SDGs のコンテストみたいなものがあるので、その発表の場を設けたいというお話は積極的に受け入れていきたいと思っております。大学のゼミやサークルのプログラムも積極的に受け入れたいということで明示しております。また、普通の企業の場合は、中小企業・スタートアップ・NGO・NPO などと比較して記載の料金でございまして協賛いただいてプログラムをやっていただこうとしています。現在だいたい半年の期間の中で協会が提供するものも含めて半分ぐらいの枠が埋まってきているところですので、まだこれからも受け付けていこうと思っております。

資料 4-3-3 の 30 ページに書いてあるものは、協会が提供するものも含めたプログラムの例として書いてあります。海外の人と環境問題について議論しようということで、今インドネシアの留学生にお手伝いいただいてプログラムの作成を進めていて、自動翻訳も絡めて、当日はインドネシアからの留学生と環境問題について議論するというプログラムをやりたいと思っています。スイスなどあと他 2 か国ほど声をかけていますが、領事館を通じて人を紹介いただいて、同じようにその国の環境問題についての取組や被害状況などを踏まえて議論していくというようなプログラムを検討中で、キリバスについては Web で現地とつないで子どもたちと議論できないかということで調整をしております。発泡スチロールやボードゲームは、企業からご提供いただけそうなプログラムということで記載しております。リユース食器やペットボトルの水平リサイクル、脱炭素の取組として、こちらの会場のドームが CO2 をたくさん吸い込んで養生するというコンクリートになっていますので、そのようなものを素材としたプログラムの提供も予定しております。会場内ツアーについては、バックヤードも含めて環境問題に関していろいろと見られるようなものを提供できないかということで調整を進めています。それにあたり、ガイドマップで、SDGs や環境に関してどのようなものが会場内にあるかを深掘りするために、ユースを公募してユースにインタビューをしてもらって原稿を書いてもらうということもやっております。先ほどご覧いただいた会場内での Web コンテンツについてはバーチャル万博というものもございます。こちらでも Web コンテンツは基本的に同じものを提供していきたいと考えております。SDGs キャンプについては以上となります。

Co-Design Challenge プログラムは、中小企業や地域の活性化に取り組む方々にもものづくりというところで持続可能な開発の観点を踏まえて、行ったものを博覧会協会では選ばせていただき、会場内にも置いていこうという取組でございます。前回のグリーンビジョンでも掲載しておりましたが、リサイクル素材で作ったベンチや給水機と併設するマイボトルを洗浄する機械などを置いていこうというのが前回までのところではございました。今回の第二弾については、黄色のハイライトにあるとおり、物品の開発に加えて、製造現場の見学を含むものという条件を付しまして、能登の災害で出た廃棄物をリサイクルして作ったものを選んでいきます。それに関する記述を 34 ページで、災害廃棄物に加えて段ボールケースの製造工場見学とのセットや「相撲発祥の地」という歴史・文化に結びついた体験などの実施を検討しているという形で記載をしております。

崎田委員長 ありがとうございます。横断的事項ということでお話しいただきましたが、着々と万博を活用したソフト的な子どもたちのプログラムや、企業から新しいものづくりへの発展など、非常に充実した内容を増やしていただいていると思います。

事務局 概要版も、今申し上げたところを要約した形で対応しています。

崎田委員長 委員の皆さんでコメントがある方はいらっしゃいますか。浅利委員は横断的分野で提案されたりしておられますが。

浅利委員 ありがとうございます。できればワークショップなど、ジュニア SDGs キャンプにもメニューを出したいと思っています。この場を借りて、ごみゼロ共創チャレンジを取り組んでいまして、それを万博のベストプラクティスに選んでいただいたので、そちらでも発信を考えているところです。

崎田委員長 ごみゼロ共創プロジェクトというのはどのようなものですか。

浅利委員 基本的には、日本のみんなで清掃する文化を世界にも輸出しようということで、アプリを使って清掃活動をネットワーク化したり、可視化したりするような取組です。グリーンチャレンジとも連携しながら進めております。

崎田委員長 わかりました。京都なのでぜひ大阪・関西万博を勢いづけていただければありがたいです。

浅利委員 会場内のごみ調査も岡山委員にもご相談しながら協会とも連携して実施したいと思っております。このあたりはまだオペレーションの相談中ですが、引き続きよろしく願いいたします。

崎田委員長 会場内のごみ調査はおそらく会場、協会の中でしっかりやったださると思っておりますが、いろいろな視点で関心が高まるといいなと思います。ありがとうございます。原田委員の方から先にお話いただけますか。

原田委員 横断的事項のプログラム例ということで、いくつか挙げていただき興味深くお聞きしていました。例えば国内に関して言えば、プログラムの下から三番目に「屋台でも使える。リユース食器について学ぼう」とありますが、リユース食器は京都では割と一般的で、大阪でも天神祭で実証実験が始まったりしていますが、全国的にはまだまだこれからという状況なので、若者、こどもに対する取組ということですが、リユース食器は業者さえ見つけたら割と簡単に導入できるので、万博でこのような取組を発信して、前日も私の大学も学園祭がありましたが、そのようなところでどんどんつなげていくような、リユース食器を勉強してただ単にリユース食器があることを知っただけではなく、学ぶというプログラムの中に、あなたの地域だったらリユース食器を扱っているこのようなところがありますよという具体的な情報も提供でき、実践的な取組につながり、レガシーとして残していけるようなことができれば面白いなと。もちろん他のプログラムもそうですが、ぜひ会場ですら

しまいではなく、その後、若い世代の皆さんが自分たちで実践できるようなサポート、情報提供が非常に大事ななと思いました。

崎田委員長 ありがとうございます。万博会場内でやっただけでなく、レガシーとして社会あるいは次世代に広がるようにという大事なご指摘ありがとうございます。知恵を出していければと思います。岡山委員お願いします。

岡山委員 ありがとうございます。私も同じところですが、SDGs キャンプなので、SDGs について学ぼうという広範なものの中で、ここでは資源循環に関わることがテーマであると受け止めています。プログラムの例を見ると、基本的にやはり 3R にかかることが多いかと思います。ただ、実はパーツ、パーツだと 3R 全体や 2R のことが意外と学習しにくいと思います。そのため、ここは例えば、「3R の〇〇」あるいは、グリーンコンシューマーの 10 か条の中でこれ、という意図するものの明記が重要だと思います。ワードの問題ですが、教育の中でグリーンコンシューマーとは何か、3R とは何かということも理解ができるようなプログラムになるとありがたいという点が一つです。

また、能登半島地震の被災地のものを使ってものを作ると聞かえましたが、そのような取組は、今で言うとも SDGs よりもはエシカル消費の一部なのかと感じました。文言、ワードを増やしていくのはあまりいいとは思わないですが、せっかくなのでエシカルやエシカル消費といった SDGs の 12 に内包されているようなことも合わせて取り組んでいますという書きぶりでもいいのかと感じました。

崎田委員長 ありがとうございます。今のお話も大事なところですよ。伊藤委員お願いします。

伊藤委員 マップやキャンプの話など、事前になるべく早めに子どもたちや先生たちに共有していただいた方がいいと思っていますが、できることしかできないとは思いますが、早めに公開できるのか、いつ頃公開するのか、私ども教育委員会の関係でつながりもあるため、なるべく早くお伝えしたいので教えていただければと思います。

崎田委員長 大事なご指摘ありがとうございます。事務局の方で、今の委員のコメントに関して一言いただければと思います。

事務局 能登の話についてグリーンビジョンに記載はしていません。記載も考えたいとは思いますが具体的には投影の通りです。Co-Design Challenge プログラムのうち、(株)金森合金が、能登半島地震の災害廃材である金属廃材を回収してサインスタンドを制作することを Co-Design Challenge の一つとして選ばせていただいています。

す。エシカルの記述については書けるところがあるか考えてみたいと思います。伊藤委員のご指摘について、ジュニア SDGs キャンプのプログラム提供は先月、今月ぐらいから大阪府下では、学校単位でいつお越しになるか、そしてお越しになるにあたって何をご覧いただくかを学校側で決めていく作業がそろそろ始まっていると聞いております。そのため、先ほどの説明では各プログラム一行ほどの記載ではありましたが、それ以上のもう少し詳しいものをご紹介できるような準備を進め、なるべく早めに今月か来月ぐらいには学校にも資料をご覧いただけるようにしていきたいと思って準備しているところでございます。

伊藤委員 ありがとうございます。マップなどはとても楽しいものだと思うので、ぜひ周知をよろしくお願いいたします。

事務局 マップについて、各参加者によって世の中に Web で出しているもの以上のものがなかなか集まってないところもあり制作は遅れていますが、なるべく早めに準備したいと思います。

崎田委員長 ありがとうございます。浅利委員の会場内のごみ調査など、いろいろ考えておられるという話がありました。あと、原田委員からは、例えばリユース食器について学ぼうというプログラムの作り方として、学ぶだけではなくレガシーとして残ることを意識した情報を伝えてほしいということ。岡山委員からは、プログラムがいろいろあるのはいいが、3R や 2R 全体の中でどのようなプログラムを作っているのか、メッセージが伝わりやすいような伝え方や、プログラムの記載の仕方も工夫ができるのではという話がありました。この辺のご指摘も事務局で配慮しながらやっていただくと効果的だと思いますので、受け止めていただければありがたいと思います。

事務局 岡山委員の指摘については、プログラムの作り方だと思うので、2R などの全体の流れの中で、リユース食器だけではなく、なぜリユース食器なのかなども踏まえて説明できるようにプログラム構成していきたいと思います。

崎田委員長 ありがとうございます。今回、今のところは色々と今後につながるご意見をいただきました。先ほど岡山委員からは、3R の優先順位をわかりやすく伝わりやすいようにしてほしいという話がありました。浅利委員からは、多くの国にしっかりとグリーンビジョンを英語できちんと伝えてほしいということ。そして原田委員の方からは、消費者にきちんと選択してもらうような形で、タイミー袋やカトラリーなどを伝えていくような場にしたらどうかということ。伊藤委員からは、来場者がどのような心構えで行けばよいか分かるように発信してほしい。そして、いろんな取組がしっかり社会に伝わるように発信してほしいということ。岡山委員からは食品

ロスの話も出ました。一つ一つ大事なのでもう一度受け止めながら進めさせていただければと思っています。

ご質問やご意見は一旦ここまでにさせていただきたいと思います。グリーンビジョンの改定案ですが、いただいたご議論を踏まえて、事務局で修正した上で、1月16日に予定されている持続可能性有識者委員会で事務局から報告していただくようにしたいと思います。昨年同様、持続可能な大阪・関西万博に向けた行動計画においては、資源循環部分の記述の改定案を要約した形で案として掲載し、有識者委員会で議論いただきたいと考えています。本日たくさんご意見をいただきましたが、具体的にどのように修正するかについては、恐れ入りますが委員長に一任いただくことでご了承いただきたいと思います。皆さんよろしいでしょうか。異議があるような挙手はないようなので、このような形で進めていきたいと思っています。大事なご意見をたくさんいただきましたので、委員長の責任において修正した上で、EXPO 2025 グリーンビジョンの改定案について、持続可能性有識者委員会にこの後報告するという形で進めていきたいと思っています。

先ほど、本日の議論を皆さんからのご意見という形でお話しましたが、3R とリニューアブルの循環経済を実現する大きな時代の境目を、大阪・関西万博で実際に来場者にも体験していただけるような場にしたいということで熱心にご意見いただきました。最後のコメントなどから考えると、それをレガシーとして次の時代に伝わるような形で、ESD 教育などにもつながればいいなと感じました。それではここまで活発なご議論をありがとうございました。では、今回万博開催前の最後のワーキンググループと考えておりますので、事務局から今後のことなど一言をお願いしたいと思っています。

事務局 ありがとうございます。おかげさまで、開催前の報告書という形のグリーンビジョンをまとめることができました。ありがとうございます。開催前は今回が最後となります。今後については、できれば会期中に一度会場の中もご確認いただいて、ある程度廃棄物の量なども出てきたところでご議論いただきたいと思います。まだ検討中ですが、参加者の表彰もできないかと考えておりますので、その辺についてもご相談差し上げたいと思っています。また、会期後には廃棄物の量などがまとまった時点で、最後のワーキンググループを一回開催したいと思っています。2025 年度もご協力いただければと思っています。グリーンビジョンの内容を充実させることができたのも、委員の皆様のご協力があったのことで考えております。今後とも引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

事務局 本日のご議論につきましては、議事録を作成して御出席者のご了解を得た上で、会議資料とともにホームページに掲載して対外的に公表する予定でございます。事務

局で内容をまとめまして、皆様にメールでご確認をお願いする予定でございます。
ご多忙かと思いますが、議事録のご確認についてよろしくお願いたします。それ
では、本日の資源循環ワーキンググループにつきましてはこれで終了させていただきます。
皆さん、ご参加ありがとうございました。

以上